

ときのあれこれ

Collection – ときコレ

(織部の日)

慶長4年(1599年)2月28日、千利休の高弟で戦国武将の古田織部は、京都・伏見で開いた茶会にひずみ形の茶碗わんを用いて参会者を驚かせました。この茶会に招かれていた博多の豪商・神屋宗湛は、その時の様子を次のような言葉で日記に記しています。

「ウス茶ノトキハ セト茶碗

ヒツミ候也 ヘウケモノ也」

この記述から、古田織部が用いた茶碗が織部焼であったと想像されます。

平成元年10月12日、市は、織部焼が史実に登場した2月28日を「織部の日」と制定し、毎年記念事業を行ってきました。今年も美濃焼の歴史、陶芸を体感できるイベントなどを開催します。

(詳しくは本紙6ページをご覧ください)

「碗」

特集 学校ではみがき

06 市政情報

登録型本人通知制度／パブリックコメント－国保特定健診実施計画、土岐市観光振興計画／土岐市一周駅伝大会による交通規制／土岐市織部の日記念事業

消防功労者表彰／多治見税務署からのお知らせ

08 情報ひろば／土岐市公民館だより

10 ときめきの瞬間

12 読者コーナー

13 土岐市教育夢・絆／給食センター掲示板

14 男と女のいきいきコラム／地域福祉を考える

15 健康ガイド

16 陶史の森だより

市長コラム

道からはじまる

「全ての道はローマに通ず」とは、ローマ帝国の全盛期に全ての道がローマに通じていたことから、物事が中心に向かい集まることなどを例えた言葉です。当時、強大な勢力となったローマ帝国は、広い国土を管理するための軍用道路を整備しました。有名なアッピア街道もその一つで、頑丈な火山岩が敷かれた道路は、約2300年経った現在でも使用されているそうです。

道の存在はまちの発展に大きく関わっています。人やモノは道を通じて行き交い、その交流は経済活動や文化活動を生み出します。土岐市は国道19号や国道21号、中央自動車道のほか東海環状自動車道が走る、高速交通網に恵まれた交通の要衝といえます。東海環状自動車道の開通をきっかけに、土岐プレミアムアウトレットのオープンや工業団地への企業の進出など、市の経済環境は大きな変化がありました。

まちづくりを考えると「道づくり」は欠かせないと思います。駅前から西側の道を拡幅する新土岐津線整備も、中心市街地のにぎわいを生むためのものです。さらに、今月下旬、東海環状自動車道の五斗蔭パーキングエリアに、スマートインターチェンジが開設されます。土岐市への入り口が増えることで新たな人の流れが生まれ、企業誘致や観光の振興など、この地域がさらに注目を集めるきっかけになると期待しています。

土岐市長 加藤靖也